

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	スポーツ振興課	主管課長名	
2-4	施策名	生涯スポーツ活動の振興	関係課	健康推進課、学校教育課、生涯学習課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	市民	①桜川市人口		人	見込値	37,653	37,269	36,885	35,356	34,734
実績値					37,653	36,794	36,120			
見込値										
実績値										
施策の意図		成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている。		①週1回以上スポーツを行っている市民の割合		%	目標値	42.0	44.0	46.0	48.0	50.0
					実績値	40.8	41.4	40.2		
		②スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている市民の割合		%	目標値	66.0	67.0	68.0	69.0	70.0
	実績値				55.2	53.3	58.6			
	③市のスポーツ施設利用者延べ人数		人	目標値	278,000.0	280,000.0	282,000.0	284,000.0	286,000.0	
				実績値	192,616.0	211,053.0	215,153.0			
	④スポーツ少年団登録指導者数		人	目標値	86	87	88	89	90	
				実績値	80	95	96			
目標値										
実績値										
成果指標設定の考え方	○スポーツを通じて健康で明るい豊かな生活が出来るかは、アンケートにより、①「週1回以上スポーツを行っている市民の割合」(実施率)と、②スポーツを日常的に行っている市民の中で、「スポーツを通じて健康で明るい生活を送っていると答えた市民の割合」において把握する。									
成果指標の把握方法及算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①週1回以上スポーツを行っている市民の割合、②スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている市民の割合は、市民アンケートより求める。③市のスポーツ施設利用者延べ人数は、市内体育施設及び学校体育施設使用許可申請書より求める。④スポーツ少年団登録指導者数は、スポーツ少年団の指導者登録人数より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景要因	○スポーツ実施率(週1回以上スポーツを行っている市民の割合)は令和5年度41.4%と比較すると1.2ポイント減少したが、スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている市民の割合は、令和5年度53.3%と比較すると5.3ポイント増加している。マラソン大会やその他イベントを通して市民の皆様がスポーツを身近に感じてもらえるようにし、ポイント増加につなげたい。 ○スポーツ施設の延べ利用者数は、令和4年度実績では192,616人、令和5年度実績211,053人、令和6年度実績215,153人と増加傾向。新型コロナウイルス感染症が収束し日常を取り戻しつつあることが考えられる。 ○スポーツ少年団指導者数は前年比1人増加で横ばいとなった。		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景要因	○週1回以上のスポーツ実施率の目標値46.0%に対して40.2%と5.8ポイント下回っている。 ○スポーツを通じて健康で豊かな生活を送っている市民の割合については、目標値68.0%に対して58.6%と9.4ポイント下回っている。 ○市のスポーツ施設利用者延べ人数は、目標値282,000人に対して215,153人と66,847人下回っている。 ○スポーツ少年団登録指導者数は、目標値88人に対して96人と8人上回っている。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
令和6年度、貢献した事務事業は「桜川市さくらマラソン大会運営事業」「桜川市スキー教室事業」「ウエイトトレーニング講習会事業」であった。 「桜川市さくらマラソン大会運営事業」では、新型コロナの感染拡大による中止から復活して2回目の開催となり、昨年度の反省点を踏まえて、実行委員会を中心に盛大に開催することができ、参加者から概ね好評を頂いた。 「桜川市スキー教室事業」では、市内のスキー連盟の方がインストラクターとして小学生にスキーの指導を行い、冬季スポーツに触れる機会として好評な企画となっている。 「ウエイトトレーニング講習会事業」は、年に4回の開催で多くの市民が参加し、基礎知識を学び、器具の正しい使い方をマスターすることで、安全なトレーニングジムの利用に繋がっている。	マラソン大会は、実行委員会や協力員等とともに、これまでの振り返りなどを行いながら問題点を改善し、より良い大会の開催を目指す。 公認スタートコーチ(スポーツ少年団)講習会を桜川市スポーツ少年団で主管してほしいとの意見があり、検討した結果、令和7年度の開催を予定している。 安全で快適にスポーツ施設が利用できるよう、老朽施設の修繕・改修を行うことにより、施設の充実を図る。温水プールサンバルについては、老朽化が顕著であることから大規模改修を踏まえた協議を重ねていく。